



この春、第一地区にとって衝撃的なニュースが続きました。

2月下旬には、メインストリートの一つ伊勢町通りの商店街振興組合が解散の方針であることが報じられ、その翌週には松本パルコの閉店が発表されました。

市民の関心はもっぱらパルコの閉店の方でしょうが、第一地区の住民にとっては商店街の解散は他人事ではありません。

令和5年5月1日現在
世帯数 : 855世帯
人口 : 1508人
男 : 722人
女 : 786人



令和7年2月末をもって閉店が決まっている松本パルコ

を代表するイベントのメイン会場の一角であり、主要な運営スタッフでもありました。市内で最も広い歩道を有し、市民参加のイベントスペースとしての活用や冬の風物詩として定着している「クリスマスマストリーコンテスト」など多くの市民に親しまれてきました。その一方で、近年商店街への未加入の事業者が増加し、活動の担い手の不足が慢

性化したことで解散につながったようです。「続けられるものなら続けたいが、そろそろ限界、潮時か」といった老舗店主の言葉を何度も聞いてきましたが、今度は商店街の番でした。

似たような事情は何も商店街に限った話ではありません。第一地区の町会員の多くは郊外の住宅から地区内の職場へ通っている方が多く、実際に暮らしている方は少数派です。自宅のある町会との「二重生活」の結果、いずれかの地区への愛着も帰属意識も薄くなりがちで、役員になったが最後、後任を見つけないようにも交代していただける方を見つけないのが困難になりつつあります。そもそも町会への加入者も減少していきまので、町会や公民館の行く末を暗示する先行事例もありません。なにしろPTAですら解散する時代ですから。

者のために整備した多くの駐車場一つとっても、跡地利用の有無によっては本当にその行く末が心配です。

時代の転換点といってしまうえばそれまでですが、このピンチをチャンスに転換するアイデアが市民にも議会にも行政にも求められます。

あるいはこんな時こそ「どうする ChatGPT」。出番ですよ。



伊勢町商店街振興組合が中心となって開催された「手まり時計まつり」

# 熟年世代の悩み

団塊世代がほぼ後期高齢者となった昨今、誰でも元気で暮らしたい、長生きしたいというのが本音かと思えます。

しかし元氣な方もいるが病気がちな方もいて、人それぞれであります。

同級会等で元氣だった方が欠けてしまった等、できていたのも現実です。

金融機関等が終活支援サービスを提供する、という案内を目にする事が増えてきました。とある金融機関の一例ですが、図1に示すように相当



図1 終活支援サービスの例

広い範囲のサポートがあるようです。

あまり一度に考えるのではなく、核心部分のさわり（誰が跡を継いでくれるのかな、というような希望的アドバ

ルーン）から始まります。被相続人及び相続人双方がこんな事を言って良いのだから、と相手のことを思うあまり避けている事も、今後のことを考えれば、早めに双方

で共有できるように進め、十分に意志の疎通が出来れば、遺言書を作り、あとの具体的な方法については「金融機関等の支援」を受けて、専門業者と進めていけば良いのではと考えます。

話は逸れますが、最近の政治は防衛費、育児等で異次元な歳出の増加をうたっているものの、予算の裏づけや時期はいまの所決まっています。

ながれを見てみると、増税の項目、時期は明確に示していませんが、相続税に含める期間を、相続開始

前3年から7年へ変更し、課税される範囲を広くし、累進税率を高め、相応の財源を確保しようとしていると考えられます。

これ以上の政治的なことはさて置いて、相続人の多数いる場合は、争族を避ける為、先行き遺言書の作成は必須ではないかと考えます。

自筆遺言書に加え、最近パソコン作成の遺言書も、ある要件を備えれば、有効とはなしも聞く、スローでも元気なうちに、順次進めていければ、心配は少なくなるのではと思えます。

他に家族信託という方法も

有るようで、これは文字通り家族等に管理を委託する方法で、これも金融機関と相談の上、最終的に士業による公正証書にするべきと考えられます。

一方で直系の相続人がいない方は、養子の縁組ができればひとつの希望となるのではと考えられます。

また、国に収納されてしまふより、自分の志（考え）を叶えてくれる寄付、または遺贈という手もあると思えます。

これら自分の考えを具現化し、心置きなく人生を過ごしたいものであります。

早朝の、まだ冷たい空気の中、この春から小学生になった息子を見送りに出るようになります。

この数年で子育て世代が少し増え、登下校の子ども達を町で見かけるといつい声をかけたくなります。息子が一年生という事もあり、近所の上級生達はとても良く気にかけてくれています。おかげで私も、その子ども達と気軽に話す事ができるので。時代が変わり、個人情報扱いはますます慎重になっていきます。連絡網などつづく昔に廃止され、同じクラスの保護者にさえ、先生を通さなければ連絡先を聞けません。

# 電車通り

それでも、少しの寂しさというか、社会の宝である子ども達に、やたらと声をかけられない現実にはモヤモヤしてしまう私なのです。

地域がもっと子ども達を知り、地域全体で見守る事が、安心して子育てできる町のはずなのですから。

## 令和5年度 第一地区町会役員(敬称略)

【町会長】	上條 誠二	【町内公民館長】	英昭
本町1丁目	山田 善敬	藤山 孝幸	孝幸
本町2丁目	田村 隆治	中原 啓	啓
本町3丁目	正村 利宗	岩原 正	正
本町4丁目	川上 修介	中岩 秀	秀
本町5丁目	井垣 健守	縣 中	博
伊勢町1丁目	井垣 健至	田 犬	陽
伊勢町2丁目	井垣 崇光	深 犬	能
伊勢町3丁目	藤澤 淳次	(同左)	(同左)
分銅町	藤澤 晴彦	寺 厚	子
新伊勢町	山越 修	塩 原	信一
神明町	田中 芳樹	(同左)	(同左)
国府町	安部 孝介	(同左)	(同左)
西五町	春日 孝士	(同左)	(同左)
西長沢町	富 新	中 畑	幸
中条中	田 宏	伊 藤	善
博労町	山 正	(同左)	(同左)
中町1丁目	山 義	樋 口	光
中町2丁目	木 真	(同左)	(同左)
中町3丁目	増 田		